

平成 2 3 年度事務事業評価調書

平成 2 3 年度作成

平成 2 2 年度 実施事業	事務事業名 特別保育事業（交流事業）
-------------------	---------------------------

区分	番号	名 称
章	1	やさしさと共生するまち
節	1	安心して子どもを生み育てられるまちをつくる
施策	1	子育ての不安と負担の軽減
小分類	3	子育て環境の整備
主要な施策	1	保育所、幼稚園における保育・教育の充実及び環境の整備
事務事業番号	001	事務事業コード 11131001 事業開始年度 平成 1 0 年度 事業終了年度 平成 - 年度

会計種別	一般会計	予算書上の事務事業名	特別保育交流事業実施経費
------	------	------------	--------------

部 名	保健福祉部	グループ名	子育てG
-----	-------	-------	------

統合前または名称変更前の事業名	
-----------------	--

事務事業の目的と成果

目的	<p style="background-color: #fff9c4; margin: 0;">（事務事業の実施目的を具体的に記載してください）</p> 保育所に入所している児童が世代間交流や異年齢児交流を通じて、人との関わりを学ぶ。
手段 （事業の内容・活動）	<p style="background-color: #fff9c4; margin: 0;">（目的を達成するためにどのような手法で行うのか、事業の概要を具体的に記載してください）</p> 遊戯の披露や昔ながらのゲームなど双方が楽しめるメニューで、老人クラブや老人福祉施設の入所者との世代間交流、のぞみ園の通所児などとの異年齢児交流を、各保育所が年6回を目処に実施する。 世代間交流、異年齢児等交流：計25回開催 481人（人数に保育所の児童数は含んでいません。） 交流先～老人クラブ、緑風園、グリーンコート三愛、のぞみ園、町内会など
成果	<p style="background-color: #fff9c4; margin: 0;">（事務事業の実施成果を具体的に記載してください）</p> 核家族化により家族又は兄弟が少ない環境の児童が多くなっている昨今、老人や異年齢児の交流を通じて対人関係を学び、情緒・情操面の発達の一助とする。
根拠法令等	<p style="background-color: #fff9c4; margin: 0;">（事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称をすべて記載してください）</p> ・児童福祉法

指標の推移

区 分		単位	区分	22年度 実績	23年度 目標	24年度 目標	25年度 目標	26年度 目標
成果 指標	交流会実施回数	回	目標値	30	30	30	30	30
			実績値	25				
	交流先延べ参加人数	人	目標値	800	800	800	800	800
			実績値	481				

事業費の推移

区 分			単位	22年度 決算	23年度 当初予算	24年度 見込	25年度 見込	26年度 見込	24～26 年度
事業の 財源内訳	国庫支出金	名称 次世代育成支援対策交付金	千円	543	563	578	578	578	1,734
	道支出金	名称	千円						0
	地方債	名称	千円						0
	その他	名称	千円						0
	一般財源	名称	千円						0
合 計				543	563	578	578	578	1,734
(参考) 上記事業を実施する上で 必要となる人件費			職 員	千円	478	491			
			嘱 託 員	千円	0	0			
			臨時職員	千円	0	0			
			合 計		478	491			

担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後も市が事業主体として実施していくことは妥当ですか？	→	妥当である 妥当ではない	→ 妥当である理由、妥当ではない理由は何ですか？ 児童が色々な人との交流を行うことは、精神面における健全な発達に効果がある。
2. 事務事業の成果について			
成果はあがっていますか？	→	成果があがっている どちらかといえばあがっている 成果があがらない	→ 成果があがっている理由、あがらない理由は何ですか？ 本事業の目的である、情緒・情操面での発達の一助という点に着目すれば、成果があがっていると考える。(成果指標は、目的に対する数値化が困難なため、参加者数等を使用している。)
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させることはできますか？	→	大きく向上させることができる 少し向上させることができる 向上させることはできない	→ どのようにして向上させますか？ 向上させることができない理由は何ですか？ 本事業を継続的に実施することで、高齢者や異年齢児の交流を通じて対人関係を学び、情緒・情操面の発達の一助とすることができる。
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさずにコスト(予算や人工、所要時間)を削減することはできますか？	→	削減できる 削減できない	→ どのような方法でコストを削減しますか？ 削減できない理由は何ですか？ 人的要素を含む費用は、必要最小限にて実施しているため削減は難しい。

担当グループによる評価

維持	左記の評価を選択した具体的な理由(根拠)	近年における児童の問題点として、核家族化等の進行に伴うコミュニケーション不足などが一因で、精神的な発達度が未成熟と指摘されているところである。このため情緒・情操面の大切な形成時期である就学前に本事業を実施することは有効な手法と考えるので、引き続き、必要な事業である。
-----------	----------------------	---

総合的な評価(当該事務事業の方向性)

維持	備考
-----------	----

評価の種類

- 拡大(事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力に推進する事務事業)
- 維持(現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業)
- 改善(現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業)
- 休止(暫定的に休止する事務事業)
- 終了(当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業)
- 廃止(当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業)